

令和8年度 第1回 学校運営協議会 会議録（要点記録）

1. 開催日時 令和8年5月29日（金） 13時30分から15時40分まで
2. 開催場所 浜松市立浜北北部中学校 尽力ホール
3. 出席委員 山本忠雄 河合貴幸 馬塚孝雅（学校支援CD） 鈴木貴子 小西雅子 河合茂伸
4. 欠席委員 なし
5. オブザーバー 細川恭由（中瀬協働センター）
6. 学校支援コーディネーター（委員外） 岡本奈緒（兼CSディレクター）
7. 学 校 岡田芳樹（校長） 松島 歩（教頭） 永田大介（主幹教諭）
市川智也（CS担当） 柳瀬翔太（生徒指導主事）
8. 傍聴者 なし
9. 会議録作成者 岡本奈緒
10. 会長の選出及び副会長の指名
司会から、会長の選出について委員に意見を求めたところ、山本委員を会長に推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。また、その後、会長に選任された山本委員から河合委員を副会長に指名する旨の報告があった。
11. 議長の選出
司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、委員から会長を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。
12. 協議事項
 - (1) 学校運営の基本方針について
 - (2) いじめ防止等のための基本的な方針について
 - (3) 今年度の目標設定、活動について
 - (4) 夢育やらまいか事業に対する意見書について
13. 会議記録
司会の教頭より、委員総数6名のうち6名の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。
14. 熟議
 - (1) 今年度の学校運営基本方針について
校長より、別紙資料に基づき説明があり、委員から以下の質問があった。
馬塚委員：芸術鑑賞などの際、学校にお招きするのではなく、逆に子どもたちが外に出向くとなるとハードルは高いのか？
校長：職場体験もそうだが、そういうものも含めてどんどん外に行ける機会を作りたい。ただ、手段をどうするか。夏休みは職場体験だけでなく、ボランティアなどもっと外へ行ける機会や場所を紹介していきたい。
鈴木委員：去年から夏休みに職場体験を行うようになり戸惑った。市等で紹介されている中から選び申し込んだが、落選続きでなかなか大変だった。
校長：前任校では、学校支援CD中心にPTAの方にもご協力いただき地元の体験先を探してもらった。教員では、体験先の確保にどうしても時間がかかってしまう。校区外の体験先にな

ってしまうなど、当日の対応が難しくなったりした。

茂伸委員：5箇所断られて子どもが自分で電話をする。学校からリストはもらったが、応募して後日結果が届く。結果も遅ければ遅いほど落選した時に切ない。最後は複数箇所、同時に応募しなければ間に合わないと焦った。どんどんかけ離れていき、最後はもうどこでもいいやという気持ちになっていた。結局、自分の知り合いに直接お願いした。こういった時は、学校から提示してくれるとありがたい。

鈴木委員：子どもたち自身に興味があって行きたい職場で体験をさせてあげたい。

校長：学校としても、魅力ある職場で体験をしてもらいたい。お困りになった時、保護者負担になってはいけない。学校が受け皿となり、しっかり相談に乗ってあげるべき。そういった体制を作りたい。

貴幸委員：1つ目。経営方針を継続することに大賛成である。昨年から委員として参画し、学校側のご努力を理解している。年度が跨っても子どもたちの生活や学習は流れている。これがベースとなり新たな職員も加わり新しい視点から良いことや課題が出てくるだろう。2つ目は経営方針の言葉がとても分かりやすいということ。特に、「北部中の魅力は」というところ。例えば 保護者であれば、自分の子どもたちの持ち味を生かして成長できる学校。先生方であれば、子どもたちの成長する姿がありがたく感じられること。地域であれば、子どもたちがすくすくと育っている姿が見られること。「魅力」というものは学校である以上、「子どもの姿」で味合わせていただきたい。「子どもの魅力は何だろう」というとき、「個」の高まりと「集団」の高まりを認め合い励まし合う集団が学校の目指すところ。そのために何をするのか、についてそれぞれの立場で方法論がしっかりとおさえてある。また、突き詰めると尽力することと示されている。このことをみんなで共通に理解しながらおさえていくことが1年間ブレずに学校を邁進させる大元になるのではないか。

3点目。いじめは学校だけで起こることではない。そこに住んでいる大人を含めてみんなで「いじめはよくない」ということを共有し、お互いが気をつける、そんな社会が理想なのだと思う。

鈴木委員：昨年から始まった「ほくほくタイム」など新たに始めた活動は、結果どうだったのか。

教頭：「ほくほくタイム」は毎週水曜、人間関係づくりを目的としてやっている。一朝一夕に結果に結びつくものではないが、仲良くする意識、授業中の話し合いの場などで話しやすくなったりすることは出てきていると思う。

主幹：「にこにこの日」は、自分の心について向き合ってみよう、せっかくならみんなで笑顔になれることをやってみようというもの。こんなことで盛り上がるの？というようなものでも、実際ワイワイと楽しそうにやっている。全校一斉にやることで共通性はある、それに基づいた掲示物もある。浜北の養護教諭が主になり始まった活動。内容は学校や地域に合ったもので、小学校でも行われている。成果がすぐに出るというよりは、後で振り返ってあんなことや面白かったね、というもの。笑顔や笑いが出るような活動です。

山本会長：どちらも常の活動ということで連続してやることで、意義があるのだと感じる。北部中学校区の合言葉が、小学校の横断幕に書いてある。そういったことが、先生側の方で意識して推進していただくことがありがたく、大切なことと感じる。

茂伸委員：今年度の大きな変更点は部活動の地域移行ではないか。個人的には、浜松市の地域移行の動きは遅いと感じる。明確な決まりも小出しで、出し切っていないのではないかと感じる。

る。そんな中、子どもたちに対して心配なのが人とのつながり。部活やクラブに入らない子も増える中で、今後、これまで当たり前のように部活動を経験してきた子と、地域移行後のクラブ中心となる子にどんな変化が表れるのか。その変化を感じながら、学校では人との関わりを大事にする機会を増やして充実させていただけたらと思う。

山本会長：まだまだわからない点がある中で、協議会としてもどのように応援していけば良いのか、引き続き考えていかなければならない。

校長：他校と一緒に「はまクル」を立ち上げているところもあるが、競技ごとの複雑さがあり、一筋縄ではいかない難しさがある。

委員全員で意見を交わし、学校運営の基本方針について承認された

(2) いじめ防止等のための基本的な方針について

柳瀬生徒指導主事より資料に基づき説明、また最近の校内状況について報告があった。

山本会長：冒頭、校長先生のお話の中にも、日々の生活の中でいじめはいけないという心をどの子にも持ってもらいたい、そのためには、大人の関わりも重要ではないかというお話もあった。生徒指導主事の説明からも、ご理解をいただけたのではないかなと思う。

いじめ防止等のための基本的な方針について承認された。

(3) 今年度の目標 活動方針について

山本会長：昨年を振り返りながら、今年度の本協議会の内容について確かめをしていきたい。

昨年度の目標から、あいさつ運動では生徒会とタイアップすることとなり、実行した。また、ボランティアに入る授業を激励参観し、各行事以外にも学校に足を運ぶ回数を増やせた。また、協議会の中で生徒会役員と交流をし、生徒会活動を直接応援することができた。協議会に出席していただく先生方を増やし意見交換をしたいという目標については、今後、交流が図れることを期待したい。昨年の目標を整理しながら一緒に振り返ったが、昨年の目標を今年度の目標としてそのまま移行してもいいのではないかなと考える。

山本会長：支援活動について地域や保護者への呼びかけ、情報宣伝活動についての提案だが、現在のCSだよりの一コマに、色々な立場で教育を考える委員からの「浜北北部中をこう考える」といったコメントや「応援メッセージ」を掲載していくのはどうか。それが地域や保護者への呼びかけ、という目標の中身。是非ご協力賜りたい。

貴幸委員：委員や作成者、お互いが無理のない範囲でやれたらいいと思う。学習ボランティアの活動も盛り上がってくるとコメントを載せるスペースがとてありません、ということであれば委員のコメントは次回号に見送るなど、バランスよくやっていけたらと思う。

教頭より、夢育やらまいか事業に対する意見書について説明。

今年度のスケジュールを確認し、会を閉じた。

付記

議事進行は生徒指導主事が授業のため、議題（２）と（３）が入れ替わった。